

# 教室の外で死んでしまう学級目標

島本政志

## 1. 外で死んでしまう学級目標

- どんなクラスにしたいか？考えてみた。  
○友だちの話をしっかり聴いている子  
○友達の学習を手助けして喜んでる子  
○友達と協力できる子  
○友達の喜びや悲しみをわがことのように感じられる子

だが、子どもたちにこうあってほしいと願うのであれば、このクラスでそんな人になってほしいと言うのであれば、クラスの一人として住人としてまず自分がそうでなければならぬ。自分が最初の一人目にならないといけない。  
目標を掲げている自分がその目標に近づこうと努力していないのにどうやって子ども達にそれをさせることができるのか。

そして、私は私の体験（複数の同僚の逮捕）からこう思うのだが、教室の外でも自身がこのようなるまいをできるようになりたい。

「教師は子どもにはやさしいが、同僚にはあまりやさしくない」  
こういうことを何人かの教師から聞いたことがある。

教師間のいじめ、けなしあい。  
無いことはない。確かにある。

であるならば、その教師が教室の中で見せる姿とは何なのか。

仕事として、子どもの前で愛敬を振りまいているだけなのか。（仕事は収入をえるための手段という面もあるのでそれはそれでいいのだろうか）

であるならば、職業と根底の人格が一致していないのではないか。

私は、自分が学級目標なるものを掲げることに不安を覚え続けていた。本気でこの目標を信じていない自分がいたためである。でも、「仕事やから」とは割り切れない自分もいた。

今のところの考えであるが、せめて自分の人格を向上させる方向に動きたい。自分は大した人格を持ち合わせていない。でも試行錯誤して何とか向上させたい。

子どもたちも同じだ。

教室の中だけ、その1年間だけその学級目標に適した人間になっても意味はない。その点を踏まえて教師は指導にあたらないといけないのではないかと考えている。

## 2. 教師のチェック

昨年度、一昨年度、6年生を担当した時

「先生、チェックせえへんからやらんねん」という子がいた。

学級のシステムとしてきちんとチェックする必要がある。これは担任の仕事である。一方で高学年になって

「チェックせえへんから、やらんねん」

という論理展開は宿題以外にも拡大適用すると、当番も係も、掃除も宿題も、授業中のノートも「チェックがなければ、やらない」ということである。完全な他律主義である。

今年度、2年生を担任している。

チェックせえへんから、やらのや。ということ平然と口に出す子を作つてはいけないと思う。

低学年ではどう対応、指導することが出来るか。システムとしてチェックしていく必要はある。

ただし、先生がいなくても、大人がいなくても、友だちがいなくても、やらなければいけないことを一生懸命にできる子、正しいことをできる子を育てる。

そのためには価値づけが必要である。

「宿題ちゃんとやっていて、えらいなあ。自分で自分のことがだんだんとできるようになっているんだね。お兄さん、お姉さんやもんなあ。立派やなあ」というような言葉がけをしたい。

言葉だけでなく、表情からもこちらの気持ち

ちを伝えたい。

何より、宿題が苦手ならば、それでも一生懸命やってきたなら、大いにほめてやりたい。

### 3. 無駄な導入

この単元で、この授業で何の力をつけるのかを最初に全て組み立てなければならぬ。様子を見て修正をする必要はある。でも、最初に頭の中で最後の姿をイメージして計画を立てる必要がある。

何となく始めた単元では無駄な指導や無駄な学習が生まれてしまう。

3時間なら3時間でスパッと終わらないといけない。一週間先を見る程度ではだめ。1か月先を見ているぐらいでないと運営できない。

音楽や図工や体育でもそうだが、どこでつまづくのかを前もって知っておく。でないと単に活動しているだけになってしまう。自分でも前もってやってみて、指導のポイントを把握しておく。

( ) 月		時間割			
	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5					
6					

  

	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5					
6					

  

	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5					
6					

  

	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5					
6					

とにかく気をひきしめて、がんばってきたい。